

令和5年度 北海道福祉のまちづくり賞 受賞事例集

ともに支え合う地域共生社会を目指して

北海道福祉のまちづくり表彰は、平成10年「北海道福祉のまちづくり条例」の施行の年にスタートし、今年度で25回目を迎えました。福祉的配慮に優れた事例を広く道民や関係事業者を紹介し、普及啓発を図ることを目的に実施しています。

公共的施設等の整備、障がいのある方や高齢者等の自立・社会参加の支援活動、障がいのある方や高齢者等の自立支援や介助者の負担軽減を図るための用具の製作を奨励するべく、3部門構成で募集を行い、「福祉のまちづくり」を推進しています。



令和5年度の受賞について

公共的施設部門3件、活動部門13件、計16件の御応募をいただいた中から、学識経験者、福祉・建築・市民活動等の有識者で構成する懇談会の意見聴取を経て、公共的施設部門2件、活動部門5件、計7件を北海道福祉のまちづくり賞に選定しました。（福祉用具部門への応募はありませんでした。）

令和5年度(2023年度)北海道福祉のまちづくり表彰の概要

1 趣 旨

誰もが安心して暮らすことができるような「福祉のまちづくり」を進めるため、福祉的配慮に優れた公共的施設等の所有者・設計者、障がいのある方等を支援するための活動を行っている団体及び障がいのある方等の自立支援や介助者の負担軽減を図る福祉用具・製品等の製作者を表章します。

2 主 催

北海道

3 後 援

札幌市、北海道福祉のまちづくり推進連絡協議会

4 対 象

○ 公共的施設部門 (福祉的配慮に優れた公共的施設等)

北海道福祉のまちづくり条例に規定する公共的施設等(※)で、道内に所在し、令和2年(2020年)7月1日から令和5年(2023年)6月30日までに完成したもの。

※ 多数の人が利用する病院やスーパーマーケット、サービス付き高齢者向け住宅等の建築物、公共交通機関(駅舎等の施設及び車両)、公園など

○ 活動部門 (障がいのある方・高齢者等の自立・社会参加支援活動)

北海道福祉のまちづくり条例の趣旨に基づき、障がいのある方・高齢者等の自立と社会参加を支援するために、道内で取り組まれている活動。

○ 福祉用具部門 (福祉用具、製品等)

道内において研究開発又は製作された、障がいのある方や高齢者等の自立支援や介助者の負担軽減を図るための用具(福祉用具、製品等)。

5 応募方法

所定の応募用紙を提出。他薦も可。

6 募集期間

令和5年(2023年)4月17日(月)～令和5年(2023年)6月16日(金)

7 北海道福祉のまちづくり懇談会構成員(五十音順)

佐藤 克之	北翔大学 名誉教授
三瓶 徹	社会福祉法人 北海長正会 理事長
白石 淳	北海道医療大学 看護福祉学部 教授
牧野 准子	障がい当事者講師の会 すぷりんぐ 顧問
山本 明恵	一般社団法人あんしん住まいサッポロ 理事

8 懇談会経過等

第1回懇談会	8月2日(水)
公共的施設部門現地確認	8月24日(木)、31日(木)
第2回懇談会	9月4日(月)
表彰式	10月23日(月)

9 お問い合わせ先

北海道保健福祉部福祉局地域福祉課企画調整係
〒060-8588 札幌市中央区北3条西6丁目
TEL 011-231-4111(内線25-613) / FAX 011-232-4070

令和5年度 北海道福祉のまちづくり賞
(公共的施設部門)

遠軽町 芸術文化交流プラザ



【駅とつながる「吹奏楽のまち」にふさわしい芸術と文化の交流プラザ】
JR遠軽駅とつながる「吹奏楽のまち」にふさわしい芸術と文化の交流プラザ。明るい動線、地域特産の木材を使用した座席だけでなく、演奏会や講演会等、幅広い利用が見込まれる将来性が評価された。



明るいホワイエ



広々とした大ホール



動線の分かりやすい
エントランスホール

受賞者の声

JR遠軽駅を中心に「吹奏楽のまち」の新たなシンボルとして、賑わいの創出と地域文化の創造、コミュニティ活性化をコンセプトに整備しました。これからも町民に親しまれ、誰もが利用しやすい施設づくりに努めます。

所有者：遠軽町
設計者：石本・日本都市設計特定委託業務共同企業体
所在地：紋別郡遠軽町岩見通南1丁目1番地2

令和5年度 北海道福祉のまちづくり賞
(公共的施設部門)

東開文化交流サロン



【多様な利用者を想定し、細やかな配慮のある、共生型地域福祉拠点のお手本】
図書機能と福祉拠点機能を兼ね備える共生型地域福祉拠点。
点字ブロック、デジタルサイネージモニター、フラッシュランプの設置
や空間設計等は、当事者団体等の意見が反映されており、多様な人への配
慮が至るところに感じられる。
また、地域の課題解決に一翼を担う見守り支援員の配置、利用者の安全
や安心感を意識した設備や設計も評価された。子どもたちが喜びそうなア
イデアのほか、図書スペースやギャラリースペースも工夫にあふれており、
今後の手本となる施設である。



当事者の意見を踏まえて
採用した点字ブロック



避難誘導にも利用できる
デジタルサイネージモニター



工夫あふれる絵本ホール

受賞者の声

高齢者や障がい者、子ども等が、地域住民とともに集い、交流し、互いに支え合
いながら、安心して生活できる「場」として整備しました。

今後も、多くの方が来館し、魅力ある建物となるよう取り組んで参ります。

所有者：苫小牧市福祉部総合福祉課
設計者：株式会社渡辺建築設計 苫小牧本社
所在地：苫小牧市東開町2丁目12番22号

令和5年度 北海道福祉のまちづくり賞
(活動部門)

音訳グループ 旭川本の会



【視覚障がい者への思いから始まった、昭和57年から続く音訳活動】

「視覚に障がいのある方々にも等しく本に接して頂きたい」との思いから、昭和57年より対面での音訳活動を開始。その後、録音図書、新聞・月刊誌、図書館の新刊図書の案内等の情報図書、利用者の希望に応じたプライベート図書の作製に取り組んできた。

長年にわたり取組みを継続している点、技術向上のために定期的な研修会を実施している点が高く評価された。



研修会の様子



情報テープをダビング中



図書館まつりで
活動内容を紹介

受賞者の声

昭和57年から、視覚障がい者の方に、録音図書を作製しお届けする活動を41年間続けています。この度、この様な賞を頂き、会員一同とても嬉しく思っています。今後も各自スキルアップを図り、活動してまいります。

所在地：旭川市常磐公園 旭川市中央図書館

令和5年度 北海道福祉のまちづくり賞
(活動部門)

札幌市立新川中学校 5組 (特別支援学級)



【特別支援学級の生徒たちに自信をもたらす町内清掃活動】

特別支援学級の独自の取組みとして、町内清掃活動を行っているほか、地域の神社の祭りでの作業製品即売会にも活動の場を広げている。感謝の声かけをもらう等の地域住民とのふれ合いを通じて、生徒たちに前向きな変化が見られている。

地域との交流を障がいに対する理解につなげ、将来の生徒たちの自立を目指す活動である点が高く評価された。



町内清掃活動の様子



作業製品即売会での
地域住民との交流

受賞者の声

「これまで頑張ってきてよかった。」「この後もずっと続いてほしい。」などと生徒は話しています。コミュニティ・スクールやインクルーシブ教育の推進につながる活動と考え、今後も地域の方々と連携して、進めていきます。

所在地：札幌市北区新川4条3丁目1番1号

令和5年度 北海道福祉のまちづくり賞
(活動部門)

ダブリュ・シー・ウォーカー
W.C.Walker



動線上の移動障壁の難易度と季節の魅力とを表現する映像のスクリーンショット

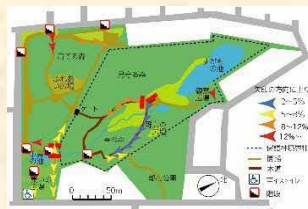
【車いす使用者目線で行う身近な環境に関する調査・情報発信活動】

車いす使用者の当事者が、車いす使用者の目線から公園を中心に環境調査を行い、その結果について自身のホームページ上で情報発信を行うほか、大学の講義で成果の報告を行っている。

当事者意識に基づき地道な活動を継続している熱意や、学生の視点や社会に変化をもたらすことが期待される活動である点が高く評価された。



公園の様子を伝える動画



車いすでの移動負荷を伝える平面図



車いすでの移動負荷を伝える動画

受賞者の声

本賞受賞を機に動画「車いすで公園にくり出そう 札幌」の存在が広く知られ、老若男女が身体能力に関わらず、札幌市内にある公園を安心かつタイムリーに利用、魅力を体感する動機づけにできれば嬉しく思います。

所在地：札幌市西区山の手3条9丁目3-8
環境複合研究所 気付

令和5年度 北海道福祉のまちづくり賞
(活動部門)

ら ん と も
RUN伴北海道
実行委員会



【だれもが住みよいまちづくりへの想いと心をつなぐタスキリレー】

「認知症になっても住みよいまちは、障がい者も子どもも観光客も過しやすい街」をテーマに、道内各地でタスキリレーを実施。認知症当事者、車いす使用者、子ども等、様々な人々が参加してきた。

認知症等の当事者が参加している点、引きこもりがちになる認知症当事者を外に向かわせる活動である点が高く評価された。



様々な人々が参加している



子どもが参加する様子



開催を重ねるごとに、
参加者の輪が広がっている

受賞者の声

この度は、素敵な賞を賜りありがとうございます。こつこつと続けてきた活動を、多くの方々に知っていただく機会にもなり、とても嬉しく思っています。今後も、認知症に優しいまちづくりに向けた活動を頑張っていきます。

所在地：函館市千歳町22番6号 理想福祉株式会社

令和5年度 北海道福祉のまちづくり賞
(活動部門)

函館市女性会議



【「誰ひとり取り残さないまち函館」の実現を目指す、市民の意識改革活動】
平成24年度より、男女共同参画の視点で防災を伝える場として、毎年、講演会を開催してきた。近年では、防災講座や体験型ワークショップ等を実施するイベント、障がい者がモデルのファッションショー、女性がん患者の方に向けた貸切温泉等に活動の幅を広げているほか、高校生が活動主体のイベント開催にもつながっている。
女性ならではの視点と発想で、長年にわたり市民の意識改革に取り組んできた点、多様な人々を巻き込み、活動が拡大してきた点が高く評価された。



イベントでの
ワークショップの様子



ファッションショーの
関係者で記念撮影



親子でテントや
段ボールベッドを体験

受賞者の声

名誉ある賞を頂き、光栄に存じます。地域における多様な課題解決のため男女共同参画の視点で取り組んできました。今後も多様な主体の連携協働の下「誰ひとり取り残さないまち函館」を目指して活動を継続してまいります。

所在地：函館市石川町311-16